

## 救いの御計画

(ヨハネ3・16～21)

## 一、だれに語られているか

皆さまは、ヨハネの福音書3章16節

「神は、実に、そのひとり子をお与えになつたほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」を見て、何を思われるでしょうか。

「この聖句はキリストの善き知らせを一言で語つたすばらしい言葉である」でしょうか。あるいは「ノンクリスチャンに対して神の御思いを伝える際にふさわしい言葉である」でしょうか。どちらも、そのとおりに思います。では、こういう視点で捉えてみるのはどうでしょうか。「この聖句は、今現在の私たちに語られている。キリストを信じる信仰に導かれて洗礼を受け、教会員になつている私たちに語られている」と。おそらく、これが一番適当な受け取り方かと思われます。と申しますのは、ここに書かれている聖句は、ノンクリスチャンではなくクリスチャンに対して、すなわち教会員に対して語られている言葉だからです。福音書が朗読された時に、主イエスがかつて語られた言葉を、今現在主イエスが語っておられる言葉として真剣に聞いたのは、教会員

でした。それは今日も同じです。かつて語られた主イエスの言葉を、きょう語っておられる主イエス・キリストの言葉として、すなわち父・子・聖霊なる神の言葉として聞いているわけです。

## 二、みことばに聴く

創造主なる神は、人を分け隔てることなく愛しておられます。たまに聞く言葉があります。「私たちがこんなにひどい目に遭つたのは、どうしてなのでしょうね。悪いことをしたわけでもないのに」と。お気持ちちは良く分かりますが、その思いの根底には、神さまは、善人には褒美を与えられ、悪人には罰を下すという考え方があるのかもしれない。ですが、神の御子イエスによれば、天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるお方です(マタイ5・45)。神は、人を分け隔てなさいません(ガラテヤ2・46)。「裁く(クリノー)」は、罪に定めるという意味ではなく「判決する」「判断する」「決める」の意味です。それを、神はなさらないというのです。17節前半をご覧ください。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、と語られています。神が世界をご覧になるとき、「あの人はいい人間だから救つてあげよう。この人は問題だから懲らしてやるよ」という目では、見ておら

れません。では、どのように見ておられるのでしょうか。17節後半です。「御子によって世が救われるためである。」今は、どんなに「ダメ人間」に見えても、

神はその人が主イエスを信じて救われることを願っておられます。人の将来がどうなるのか、私たちにはまったく分かりません。ならば、軽率な判断や予測は慎まなければなりません。

## 三、神の裁きとは

神は人を裁かれません。すなわち、私たちがしているように、人を分け隔てて見とおられません。どんな人であっても、たとえばきのうまで神に背を向けて歩んでいた人であっても、「背を向けていたから神も背を向けられる」ということはありません。ですが、神が退けられる場合もある、ということをお教えられる場合があります。18節です。「御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかつたので、すでにさばかれている。」とあります。「私は罪人だ。神から離れていた。キリストの恵みによらなければ救われない」と知つて主イエスを信じ、従う人は幸いです。しかし、キリストの善き知らせを聞きつつも、「私は自分の道を行く。縛られるのが嫌だ。自分の力で生きて行く」という選択をするなら、すでに裁かれている、というのです。そういう人の特徴は何でしょうか。「神なんか要らない

窮屈だから」です。こうならないことが必要です。ヨハネの福音書が発行されたとき、主イエスはだれに語られたのでしょうか。ヨハネが関わっていた教会員です。今日はだれに対して語られていますか。私たちです。ペテルキリスト教会を構成する一人ひとりです。「私はイエス・キリストを信じたことのあるしである洗礼を受けていますから、私は大丈夫です。」と言つて済ませられるでしょうか。ここで語られているのは、

そういう人はすでに裁かれているということですよ。どのような裁きでしょうか。「滅びる(アポルミ)」という言葉です。16節に出てくる言葉です。では、「滅びる」とはどのような裁きでしょうか。実は、同じ言葉が使われている、主イエスのたとえ話があります。「なくした」「いなくなった」「失われた(ルカ14・4、8、24、19・10)が「滅びる」と同じ言葉です。と言うことは、教会員でありつつも、「私は主イエスに頼らなくても生きていける。むしろ自由になる」と思うときに、自らが神の裁きを招き入れてしまつて、神の前に「失われた人」、神の前に「いなくなつてしまつた人」、神の前に「滅んでしまつた人」になつてしまうのです。もちろん、そうなることを神は望まれません。

「私はイエスさま抜きには生きていきません」と心底より思っている人は救われている人です。幸いな人です。